

インドの結婚コーナー：カースト

カーストとは、結婚や食事に関する「タブー（禁忌）」など、厳格な規制をもつ、インドの階層制の通称です。カーストによる差別は法律で禁止されていますが、とくに地方では今でも社会に根づいています。

ヴァルナ カーストというと、インド古来のバラモン（司祭）、クシヤトリヤ（王侯・武士）、ヴァイシャ（庶民）、シュードラ（隸屬民）の四姓と理解されることが多いですが、これは正確には「ヴァルナ（色）」と呼ばれます。古代にヨーロッパ系のアーリヤ人がインドに侵入して、支配者となりました。肌の白いアーリヤ人と肌の色が濃い先住民とを区別するヴァルナ（色）という語が使われ、「身分」「階層」の意味が加わりました。混血が進み肌の色では区別できなくなったとともに、この語は依然として「階層」の意味に使われ続けたのです。

ジャーティ カーストとは、ポルトガル語で「家柄」「血族」を意味するカスタに由来する語です。インドでは、カースト集団を「生まれ」を意味する「ジャーティ」という語で呼んでいます。ひとつの村は、ブラーマン（ヒンドゥー教司祭）、地主、農民、金銀細工師、銅細工師、鍛冶屋、土器職人、織物職人などの職能集団、すなわち数十の「ジャーティ」で構成され、それらは、淨と不淨（ケガレ）の観念に基づいて、上下の序列がつけられています。

タブー そのために、カーストの上位の者が下位の者と食事を共にすることは、ケガレが移ると考えられ、タブーとされています。また、カーストが異なる者同士の結婚もタブーとされ、「カースト内婚」（同じジャーティ内で結婚する）が行われます。ただし、婚姻が許される同程度のジャーティもあり、その場合、女性はより上位の男性に嫁ぐのがよいとされ、それを「ハイパーガミー（上昇婚）」と言います。その場合はとくに、たくさんの「ダウリー（持参財）」を嫁側が用意し、婿側の家族に贈与することが求められます。

モノのやりとり ～島々をむすぶ交易

贈り物がつなぐ関係 人とお付き合いにとって、「贈り物」は重要な意味を持ちます。たとえば、誕生日や記念日にはプレゼントを贈るなど、私たちが誰かと親しい関係を続けたいと願うとき、想いや願いをこめて物や言葉を贈り合います。ポイントは、貰^{もら}いっぱなしではなく「お返し」をすること。たとえ見返りを期待されていなくても、感謝の気持ちを表したり、別の機会に返礼^{へんれい}をすることで、人間関係^{えんかつ}が円滑^{えんかつ}に進むというわけです。こうした「贈り贈られる」ことを「互酬性^{ごしゅうせい}」といいます。個人的な関係だけでなく、会社・団体、集落や共同体といった集団同士においても、繋^{つな}がりを深め強めるためのやり取りがされています。集団間になると、贈り物の行為はより形式的、儀礼的^{ぎれい}になる傾向^{けいこう}があります。

島々をむすぶ交易 ニューギニアの島々では、島でとれる特産品を物々^{ぶつぶつ}交換^{こうかん}して生活に必要なものを手に入れます（交易）。島ごとに手に入る品^{こと}が異なるため、近隣^{きんりん}だけでなく広く遠洋^{えんよう}に繰り出し離れた島々とも交易を行います。交換される物品は、魚、タロイモ、ココナツなどの食料品、土器、樹皮布^{じゅひふ}や網袋^{あみのくろ}などの生活必需品、装飾品^{ひつじゅひん}、動物の牙^{そうしょく}、貝^{きは}、鳥の羽にいたるまでさまざまです。交易品は、数々の島を経由しながらさらに遠く離れた島へと運ばれていきます。カヌーでの危険な航海を経てやって来た人々は大いに歓迎^{かんげい}され、宴会^{えんかい}に招かれ、もてなされます。

交易へは訪問先の儀礼や祭りに招かれたとき、新造カヌーのお披露目^{しんぞう}などの際に出かけます。交易は大体の品目の目安^{めやす}が決まっていますが、贈り物の形をとるので、親しい仲だとあげすぎたりもします。交換の成果^{せいかく}は儀礼や祭宴^{さいえん}の場で評価^{けいひ}されますが、質や量もさることながら、誰から誰に贈られたかという系譜も重要です。

島で生きる人々にとって、他の島との関係を良好^{りょうこう}に保つことはくらしと直結^{ちょつけつ}する問題です。そのため交易は、単なる経済活動だけではなく、友好関係を深め人々の結びつきを強める役割^{ひくめ}を持っているのです。